

産官学シンポジウム 2025「日本の創薬の未来を考える」

開催趣旨

日本の創薬の未来を考える上で、バリューチェーンのどこを強化しなければならないか？ オープンイノベーションなども含め、創薬エコシステムのどこに課題があり、どう改善していったら良いのか？ ということが、非常にシンプルな疑問ではあるが、その確固とした答えを誰も導き出せていない、というのが素直な所見であろう。そんな中、いよいよ多様化し、高度化するモダリティにおいて、我が国からはイノベーションが生まれにくいという現状があり、構造的な課題が指摘されている。日本の創薬の未来に不安を感じざるを得ないという意見が述べられても不思議ではない。

一方で、ここ数年、行政が主導する形で日本の創薬力強化策が様々な場面で議論されてきており、医療費の高騰への対処や薬剤費の抑制という観点からの政策論議ではなく、バリューの公正な評価、イノベーションの評価などを含む多面的な観点による政策が論じられてきている。真に価値のある薬剤、新たなイノベーションを生み出す力を持つ企業にとっては明るい材料であり、果敢にリスクテイクをするだけの価値が生じつつある。

世界に目を向ければ、ベンチャー・スタートアップがイノベーションの重要な一翼を担う場面がしばしば見られる。自前でバリューチェーンの全面展開を行い、自社らしさを強調する時代から、オープンイノベーションやアウトソーシングを活用しつつ、自社の保有するリソースを最適化する時代へと大きく変化している。エクスターナル・リサーチとネットワークの戦略的な活用により、自社で保有するクリエイティブな強みをいかに効率的に発揮できるか、ということが日本企業にも求められている。また、AI や iPS 細胞の活用によって研究活動を飛躍的に効率化させることも、もはや当然のこととして重要になっている。

当シンポジウムは、日本の創薬について多面的な考察を行い、その課題と可能性を洗い出すことにより、日本の創薬の未来が輝きを放てるよう、産・官・学それぞれの観点から自由闊達に議論する場としたい。

シンポジウム座長
北里大学大学院薬学研究科教授
医療科学研究所理事
成川 衛